

天皇の公務の負担軽減等に関する有識者会議（第9回）議事概要

1 日時：平成29年1月23日（月）17：33～18：17

2 場所：総理大臣官邸大会議室

3 出席者：

・天皇の公務の負担軽減等に関する有識者会議メンバー

今井 敬	日本経済団体連合会名誉会長
小幡 純子	上智大学大学院法学研究科教授
清家 篤	慶應義塾長
御厨 貴	東京大学名誉教授
宮崎 緑	千葉商科大学国際教養学部長
山内 昌之	東京大学名誉教授

・政府側

安倍 晋三	内閣総理大臣
菅 義偉	内閣官房長官
杉田 和博	内閣官房副長官
衛藤 晟一	内閣総理大臣補佐官
古谷 一之	内閣官房副長官補
近藤 正春	内閣法制次長
西村 泰彦	宮内庁次長
山崎 重孝	内閣総務官

4 議事概要

（1）内閣総理大臣挨拶

- 皆様におかれては、御多忙の中、天皇陛下の御公務の負担軽減等を図るため、どのようなことができるのか、昨年10月以来これまで8回にわたり、様々な専門的な知見を有する方々の御意見も伺いながら、精力的に議論を進めていただいた。改めて心から御礼を申し上げる。
- 私自身、直接会議に出席することはかなわなかったが、毎回、議論の報告を必ず受けるとともに、議事録・議事概要に目を通させていただいた。

- 本日の論点整理は、今後の議論の土台となる大変重要なものと認識しており、本日は、私も皆様の議論に加えていただくこととした。
- 皆様の忌憚のない御意見を伺いたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

(2) 今後の検討に向けた論点の整理（案）について

- これまでの会議における議論を踏まえて作成された「今後の検討に向けた論点の整理（案）」について、事務局から朗読しつつ説明があった。
- この説明に関し、構成員から次のような発言があった。
 - ・ 有識者会議で3回ヒアリングをして、多くの専門家を呼んだが、そのようなヒアリングをすることによって、国民の皆さんにいろいろな考え方があるということを経済的な形でわかっていただけたのではないか。
 - ・ 安定的な皇位継承が最も大事だと思っている。その上で、制度のみ単体として考えるのではなく、国民とのかかわりの中での天皇制を考えるべき。今上陛下の象徴天皇としての御姿が、国民との関係でどのような役割を担っているかということを経済した議論が必要。
 - ・ 今上陛下のビデオメッセージの後、国民の大多数が退位されてもよいのではないかと思っただのも、今上陛下が今までいろいろ国民のためになさってくださったことへの感謝の気持ちが大きかったためなのではないか。
 - ・ 天皇陛下の御公務のあり方は極めて大切な事柄であり、特に退位の問題については、近代の天皇制になってからは前例のないことでもあり、また、今回もし前例となれば将来にも影響を与える可能性があることから、これは慎重の上にも慎重に検討しなければいけない事柄なのではないか。
 - ・ 退位の問題にかかわる論点は、プラスとマイナスの両面があり、その中で最適な選択をしていかなければいけない。最初からこうあるべきだということはなかなか決めにくい。今回、専門家の方々からお話を伺い、またここで議論をする中で、改めてそのことを痛感した。まさに今回の論点整理は、そのプラス・

マイナス両面があることを改めて明示したと思う。国民の皆様はプラス・マイナスがあるということをよく理解、共有していただき、最終的には、責任を持って意思決定をされる政府、国会の皆様は、それらの論点を慎重に吟味、検討していただきたい。

- ・ 今回の論点整理においては、とりわけ「退位について」と、「将来の全ての天皇を対象とすべきか、今上陛下に限ったものとすべきかについて」について、かなり詳細に両方の議論が示されている。この辺が今回の整理の肝であり、今後とも全面的に議論を詰めていったらよいのではないか。
- ・ これまで2000年続いてきたものを、これから2000年どうするのかという大きな問題について、まずは安定した皇位継承という大前提の下、いかにつないでいくのか、その大戦略を遂行するためにはどうすればいいか、御退位なのか、摂政なのかという切り口で議論してきた。
- ・ 象徴というのは非常に深い概念だと思う。天皇陛下そのものがまさに文化であり、価値観、歴史観、あるいは家族のあり方、あるいは高齢化社会のあり方、情報社会のあり方、様々なものを象徴していらっしゃるのではないか。その象徴としてのお立場を考えること自体も文化の形成過程であり、今回、様々なレベルで多くの国民が議論したり考えたりしていることは、ある意味で国民総ぐるみで歴史をつくっている状況が出現したといえるのではないか。まさにこの国のかたち、いわゆるアイデンティティーをどう模索していくかということであって、中立、無心に議論していただきたい。
- ・ 今回の議論は、政治と歴史、法律と政策との間にまたがる複雑な領域にかかわる問題に触れた。天皇のお立場が、憲法において定められている国事行為を担う象徴であられるという法律的な側面、象徴たる根拠とは一体何なのかということなどを常に模索され、具体的な公的行為を通して、国民の間に天皇と民主主義との調和的解釈を定着させてきたという政治的な側面、さらに、皇祖皇宗の長い祭祀の伝統を継承しながら、新時代においてもまさに私的行為として国民のために祈り続けるという、宮中あるいは皇室の長としての天皇の責務に対する歴史的評価、つまり歴史と政治と法律にまたがる議論を進めてきたのである。しかし、このような複雑さは現憲法下だけではなく、戦前の旧憲法下においてもあったのではないか。例えば、政党政治という観点から見ると、大正9年、1920年9月に、政友会の原敬首相が述べた「政府は皇室に累の及ばざる様

に全責任の衝に当るは即ち憲政の趣旨にて、又皇室の御為めと思ふ。皇室は政事に直接御関係なく、慈善恩賞等の府たる事とならば安泰なりと思ふて其方針を取りつつある」という内容は、「慈善」を国民に寄り添うと考えるならなおの事、時空を超えて参考になる指摘なのではないか。国事行為、公的行為、私的行為に分類される天皇の行為を調和的に考える際に、原首相という政党政治家の先人の重要な金言は、大事な手がかりとなるだろう。

- ・ 私たち国民の、陛下の公的行為を含めた全てに対する感謝の念を考えたときに、世論の動向と、会議での論点整理の動向が、さほど無理なく自然な形で収れんしていくのではないか。

○ 「今後の検討に向けた論点の整理」について、案のとおり決定することとした。

(3) 座長挨拶

○ 本会議は、本日まで9回にわたり、御高齢となられた天皇の公務の負担軽減等を図るため、どのようなことができるか、16人の有識者からヒアリングを行うとともに、メンバー間において精力的に議論を重ねてきた。本日ここに論点整理を決定することができたのは、ひとえにメンバーの皆様方の真摯な御議論の賜であると考えており、座長として御礼申し上げます。

○ この論点整理は、天皇の御公務の負担軽減等に関して、これまでの議論で明らかとなった論点や課題を分かりやすく整理したものであり、これを公表することによって、国民の皆さんの理解が深まることを期待するものである。

○ 今後、今回の論点整理に対する国会や世論の動向等も参考にしながら、更に有識者会議の議論を深めていきたいと考えている。メンバーの皆様には、御多忙なこととは思いますが、これからも精力的に議論に参加いただき、本会議として結論を取りまとめることができるよう、何とぞ御協力のほどお願いしたい。

(4) 今井座長から安倍内閣総理大臣へ「今後の検討に向けた論点の整理」を手交した。

(5) 内閣総理大臣挨拶

○ 「今後の検討に向けた論点の整理」を取りまとめていただいたことに感謝する。

この問題は、国の基本、そして、長い歴史とこれからの未来にかけての極めて重い課題である。しっかりと議論しなくてはならないものと考えている。

- 論点整理においては、論点ごとに積極的意見と課題をわかりやすくまとめていただいた。この論点整理の公表により、国民の皆様の理解がより一層深まるものと期待している。
- 政府としては、各党各会派における御検討の際にもこの論点整理を参考としていただくよう、衆参両院の議長・副議長にお願いするとともに、各党各会派の御協議の場において論点整理の内容を説明したいと考えている。
- 有識者会議の皆様におかれては、この論点整理に対する様々な御意見も踏まえつつ、さらに議論を進めていただくよう、よろしくお願い申し上げます。

(6) 今後の進め方

- 第10回会議は、2月13日10:00から開催することとなった。